

株式会社ケー・エフ・シー

2026年3月期 決算説明資料

2026年6月4日



I. 決算概要・業績予想	P.4
II. 経営戦略	P.15

サマリー(2026年3月期決算および来期業績予想)

■ 2026年3月期 決算

売上高 255.4億円(前期比2.0%減) 経常利益 11.7億円(前期比19.5%減)

- 売上高は耐震関連工事を中心に完成工事は順調に推移したものの、商品販売の減少により減収
- 経常利益は売上高の減少、および一部大型案件の進捗影響に加え、原材料価格や労務費単価の上昇により減益

■ 2027年3月期 業績予想

売上高 270億円(前期比5.7%増) 経常利益 16億円(前期比36.2%増)

- 耐震関連工事の堅調な受注、手持工事の順調な進捗により増収の見込み
- 売上拡大に向けて、高付加価値商品の販売拡大、土木耐震せん断補強(RMA)の新規市場への取り組み、また技術提案営業による他社との差別化に向けた取り組みをすすめる
- 中東情勢の影響によるさらなる原材料価格や運送費の高騰や、積極的な人材投資や設備投資による営業費増加が見込まれるが、コスト管理の徹底および生産性向上による収益改善への取り組み強化により経常利益達成を目指す

決算概要・業績予想

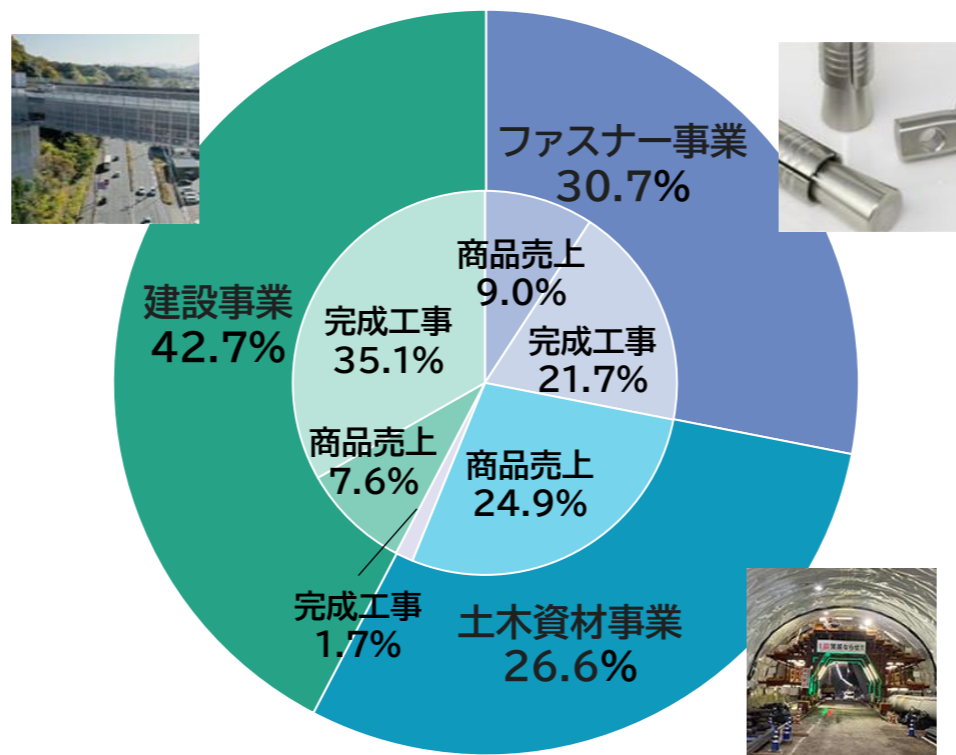


1. ケー・エフ・シーグループ概要

- 自社工事だから出来る現場視点での顧客ニーズを捉えた製品・技術開発による他社との差別化
- オーストリアからNATMを導入、独自技術に発展させたロックボルトや遮水シートなどトンネル掘削資材のトータル提案によりロックボルト販売全国シェア約55%（※2026年3月期、自社調べ）
- 現場ニーズを掴み、技術提案力を元に独自工法を開発、元請受注力を高め、全国での自社施工体制を構築。新設工事から補修工事までをこなし、緊急工事対応で顧客の信頼を得る

売上構成 (連結:2026年3月期 255億円)

※ セグメント間取引の調整をしております



建設事業

- トンネル内装及び耐火工事及び遮音壁設置工事等の環境工事の設計・施工
- 防護柵設置工事及び落下物防止工事等安全施設工事の設計・施工
- トンネル補強工事及びビル外壁補修工事等リフレッシュ工事の設計・施工
- トンネル内照明及び防災等設備工事並びに橋梁部設備関連工事の設計・施工

ファスナー事業

- 各種「あと施工アンカー」類の販売・施工
- 鋼材及び各種金物の製作・販売
- 耐震関連資材の販売
- 電動工具類及び付属ビットの販売
- 建築物等の耐震関連工事の設計・施工
- 道路及び鉄道橋脚等の耐震関連工事の設計・施工

土木資材事業

- ロックボルト等トンネル支保材料の製造・販売
- ドライモルタル等ロックボルト用定着材の販売
- トンネル用防水シート及び附属品並びに溶着機等施工機械の販売
- ウレタン注入剤等トンネル用岩盤固結剤及び注入機等施工機械の販売並びにレンタル
- 遮水シート、防水シートの輸入販売、設計、施工

2. 2026年3月期決算実績

①決算概要総括

業界環境

- 公共建設投資、民間設備投資は堅調なもの、慢性的な人材不足、建設DXへの対応など業界の課題は解消しておらず、リスクの内在する不透明な事業環境は継続

売上面

- 手持工事は順調に進捗(ファスナー、建設)したもの、西日本地区におけるトンネル掘削資材販売の減少(土木)により減収

連結売上高 25,548百万円 <small>※セグメント間取引調整後の金額</small> 前期比 △525百万円 △2.0%	ファスナー事業	8,149百万円	△23百万円 △0.3%	<ul style="list-style-type: none"> ■ 民間施設の耐震補修工事の受注増加 ■ 土木耐震せん断補強(RMA)の上下水道施設、ダム施設補強工事、土木構造物補修工事の順調な受注 ■ 商品販売が僅かに減少
	土木資材事業	7,076百万円	△570百万円 △7.5%	<ul style="list-style-type: none"> ■ 西日本地区でのロックボルトやトンネル補助工法の資材販売の減少 ■ 特異な地山性状に対応する特殊ロックボルトや補助工法資材は販売伸長
	建設事業	11,367百万円	+58百万円 +0.5%	<ul style="list-style-type: none"> ■ 当期受注を含め、手持工事は堅調に推移 ■ (連結子会社)道路橋脚一面耐震補強工事の受注増加

利益面

- 原材料価格、労務費単価の高騰による粗利益率の低下により減益

連結経常利益 1,174百万円 前期比 △285百万円 △19.5%	ファスナー事業	571百万円	△133百万円 △18.9%	<ul style="list-style-type: none"> ■ 原材料価格の高騰に伴う適正価格への転嫁 ■ 工事における労務費価格の高騰
	土木資材事業	194百万円	△201百万円 △50.9%	<ul style="list-style-type: none"> ■ 西日本地区における物件減少による売上高減少 ■ 原材料価格、運送費の上昇
	建設事業	408百万円	+49百万円 +13.7%	<ul style="list-style-type: none"> ■ 追加工事にかかる原価先出しによる利益の低下 ■ (連結子会社)道路橋脚一面耐震補強工事の受注増加

2. 2026年3月期決算実績

②セグメント毎実績

ファスナー事業

- 民間建築改修工事が顕著に発注され受注増加
- 土木耐震せん断補強(RMA)は順調に受注し、前年度並み(前年同期比3%増)
- 商品販売は僅かに減少



<主要施工・納品実績>

- 令和7年度和賀中央農業水利事業下堰幹線用水路(その10)工事
- 江尻排水機場第4制水門耐震補強他工事
- 東日本三菱自動車販売(株)目黒店耐震改修工事
- 水元給水所耐震補強工事
- 呑川防潮堤耐震補強工事(その208)
- 船明ダム耐震裕度向上工事(第2期)
- 名古屋第二環状自動車道 勝川高架橋他7橋耐震補強工事
- 坂井地区水道用水供給事業No.2浄水池改築工事
- 徳島自動車道 泉谷川橋他4橋耐震補強工事
- 高松自動車道 高松西～大野原IC間耐震補強工事



土木資材事業

- 新設トンネル発注物件は全国的に減少傾向
- 地方自治体、電力などでトンネル補修工事物件は増加傾向
- 原材料価格や運送費の高値継続、鋼材価格は横ばいから再上昇

<主要納品実績>

- 北海道新幹線トンネル 各現場
- リニア新幹線トンネル 各現場
- 秋田県マタギの里トンネル
- 神奈川県庄戸トンネル
- 岐阜県久々利トンネル
- 長崎県江川トンネル

建設事業

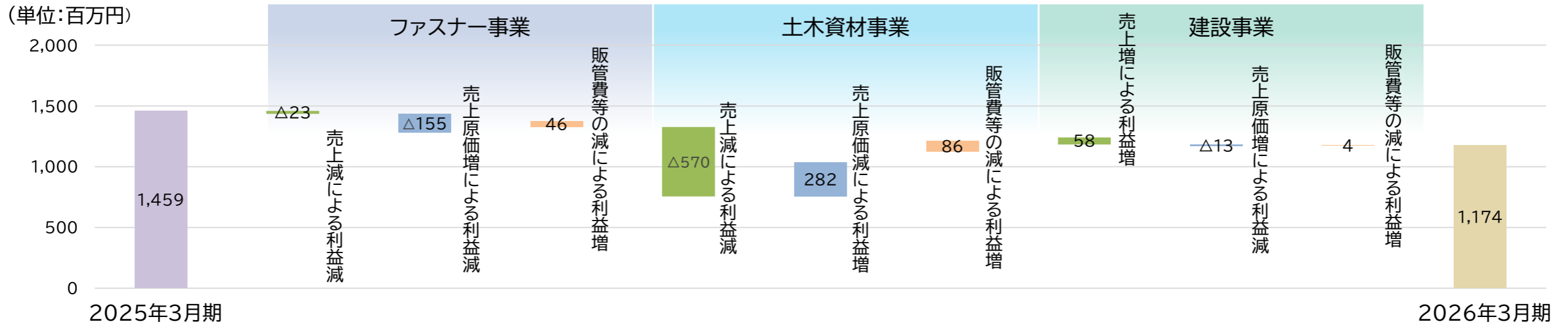
- トンネル覆工補強工事をJVにて施工中
- コンクリート構造物補修工事、トンネル設備工事の新規受注
- 子会社における道路橋脚一面耐震補強工事の受注

<主要施工実績>

- 長野自動車道(特定更新等)岡谷トンネル覆工補強工事
- 仙台東部道路 館腰橋補修工事
- 令和4年度 中国自動車道(特定更新等)千代田高速道路事務所管内構造物補修工事
- 新東名高速道路 小山PA～新御殿場IC間遮音壁工事
- 横浜新道 京浜管理事務所管内トンネル補修工事
- 令和6年度 京都高速道路事務所管内遮音壁取替工事
- 宮崎自動車道(特定更新等)天神トンネル(上り線)他1トンネル覆工補強工事
- 宮崎自動車道(特定更新等)天神トンネル(下り線)他1トンネル覆工補強工事
- 東海北陸自動車道 岐阜管内コンクリート構造物補修工事

2. 2026年3月期決算実績

③ 経常利益増減要因分析



ファスナー事業

- △ 23 商品販売の減少
- △155 完成工事における原材料費、施工費の増加
- + 46 人件費の減少

土木資材事業

- △570 西日本地区でのトンネル物件数、補助工法案件の減少
- +282 技術提案による特殊ロックボルトや補助工法資材等による利益率向上
- + 86 売上高減少に伴う運送費の減少

建設事業

- + 58 コンクリート構造物補修工事の手持工事は堅調な推移、子会社における一面耐震工事の受注増加
- △ 13 手持工事の追加工事にかかる原価先出しによる粗利益の減少
- + 4 人件費は増加したが変動費の圧縮により前年度並みに推移

2. 2026年3月期決算実績

④貸借対照表 (B/S) (連結)

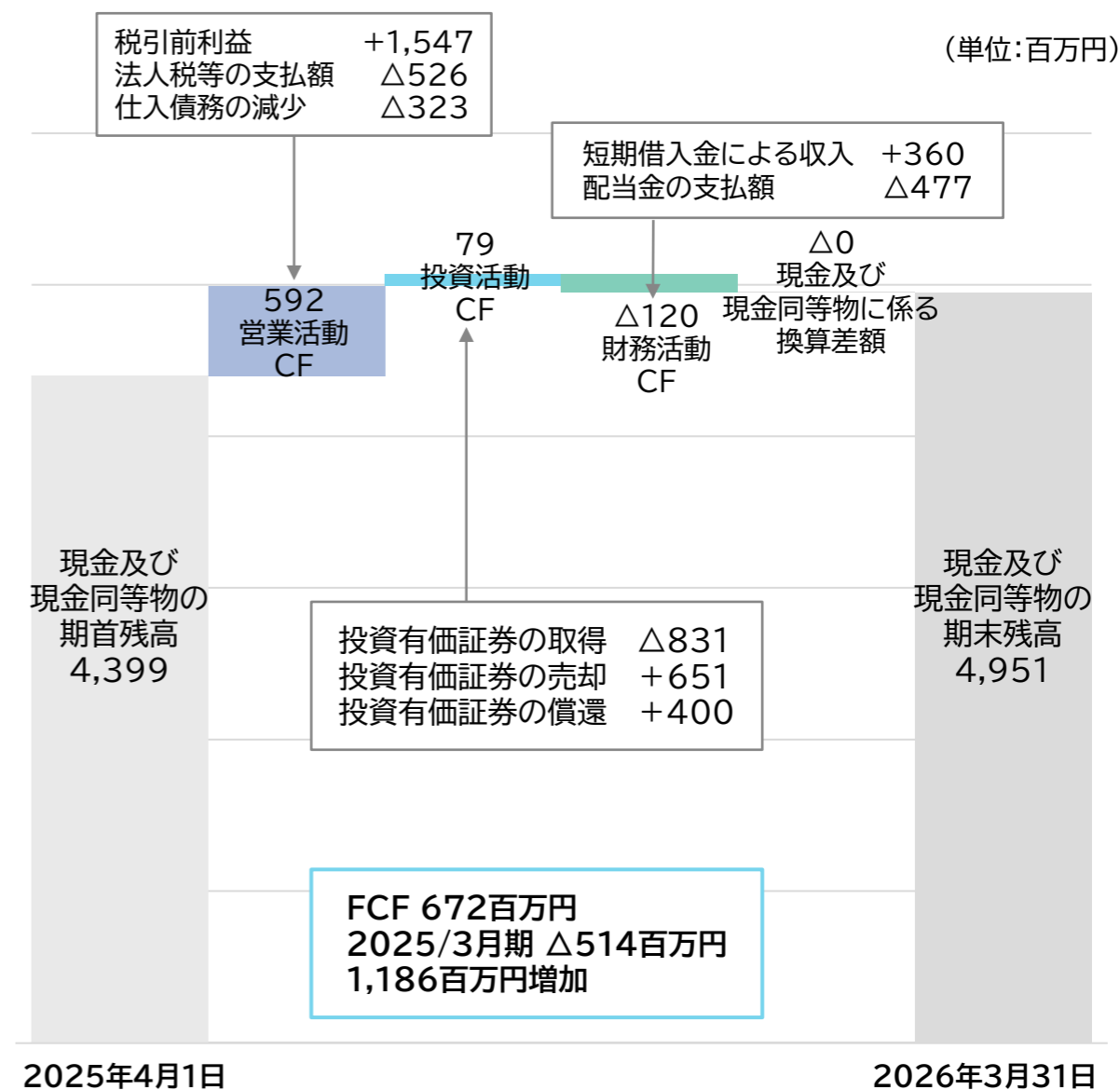
(単位:百万円)

	2025年3月期	2026年3月期	増減額	コメント
流動資産	18,719	19,069	349	
現金及び預金	3,599	3,951	352	
受取手形及び 完成工事未収入金等	9,495	9,493	△1	
その他流動資産	5,625	5,624	△1	
固定資産	10,121	10,891	770	
有形固定資産	4,862	4,870	7	
無形固定資産	283	221	△61	
投資その他の資産	4,974	5,799	824	■ 主として株価上昇に伴う有価証券評価差額の増加
資産合計	28,841	29,961	1,120	
負債合計	7,591	7,803	212	
(借入金残高)	490	850	360	
純資産合計	21,249	22,157	907	■ 主として親会社株主に帰属する当期純利益による増加
負債純資産合計	28,841	29,961	1,120	

2. 2026年3月期決算実績

⑤ キャッシュ・フロー計算書 (連結)

	2025年3月期	2026年3月期	増減額
営業活動による キャッシュ・フロー	△ 85	592	678
投資活動による キャッシュ・フロー	△ 429	79	508
財務活動による キャッシュ・フロー	△ 446	△ 120	325
現金及び現金同等物に 係る換算差額	0	0	0
現金及び現金同等物の 増減額	△ 960	552	1,512
現金及び現金同等物の 期首残高	5,359	4,399	△ 960
現金及び現金同等物の 期末残高	4,399	4,951	552



3. 2027年3月期業績予想

①業績予想のポイント

売上面

- 提案営業による受注強化、土木耐震せん断補強(RMA)の受注拡大、手持工事の堅調な推移により増収の見通し

連結売上高 27,000百万円 前期比 +1,451百万円 +5.7%	ファスナー事業	9,000百万円	+850百万円 +10.4%	<ul style="list-style-type: none"> ■ 顧客ニーズに対応した最適な商品・サービスを提供するソリューション販売の強化し、顧客満足度および売上・利益の最大化を図る ■ 官民建築、土木構造物補強・補修工事の受注
	土木資材事業	8,100百万円	+1,023百万円 +14.5%	<ul style="list-style-type: none"> ■ 提案営業による補助工法物件、トンネル補修工事物件の受注 ■ 西日本地区での物件減少による売上への影響 ■ 多発する自然災害復旧等による発注減、遅れの懸念
	建設事業	9,900百万円	△1,467百万円 △12.9%	<ul style="list-style-type: none"> ■ コンクリート構造物補修補強工事・設備工事等の提案営業による受注強化 ■ 手持ちの大型元請工事の適切な進捗管理による売上計上

利益面

- 中東情勢不安定化に伴う原材料価格の高騰、また設備投資や人件費の増加(共通)が見込まれるが、コスト管理の徹底、生産性向上により増益の見通し

連結経常利益 1,600百万円 前期比 +425百万円 +36.2%	ファスナー事業	760百万円	+188百万円 +32.9%	<ul style="list-style-type: none"> ■ 中東情勢問題による各メーカーの原材料価格の値上げ動向に注視し、適正販売価格への転嫁 ■ 省力化対策製品の技術開発 ■ 労務費原価の管理強化
	土木資材事業	360百万円	+165百万円 +85.1%	<ul style="list-style-type: none"> ■ 技術提案商材・新規商材による収益改善
	建設事業	480百万円	+71百万円 +17.5%	<ul style="list-style-type: none"> ■ 工事実行予算の見直し・精査による適正な利益率への改善 ■ 技術提案営業による利益の確保 ■ 原材料価格の高騰に伴う適正見積価格への転嫁

3. 2027年3月期業績予想

②セグメント毎業績予想ポイント

ファスナー事業

- 官民建築補修・補強工事の堅調な発注と受注
- 土木耐震せん断補強(RMA)の堅調な発注と受注
- 原材料価格上昇分の販売価格への転嫁
- ICT技術への取組



土木資材事業

- 独自工法・資材を活かし技術提案による補助工法資材の受注強化
- トンネル補修工事、重金属対策など環境対策資材の受注強化
- 高機能商材・新規商材の受注強化
- 多発する自然災害復旧等による発注減、遅れの懸念



建設事業

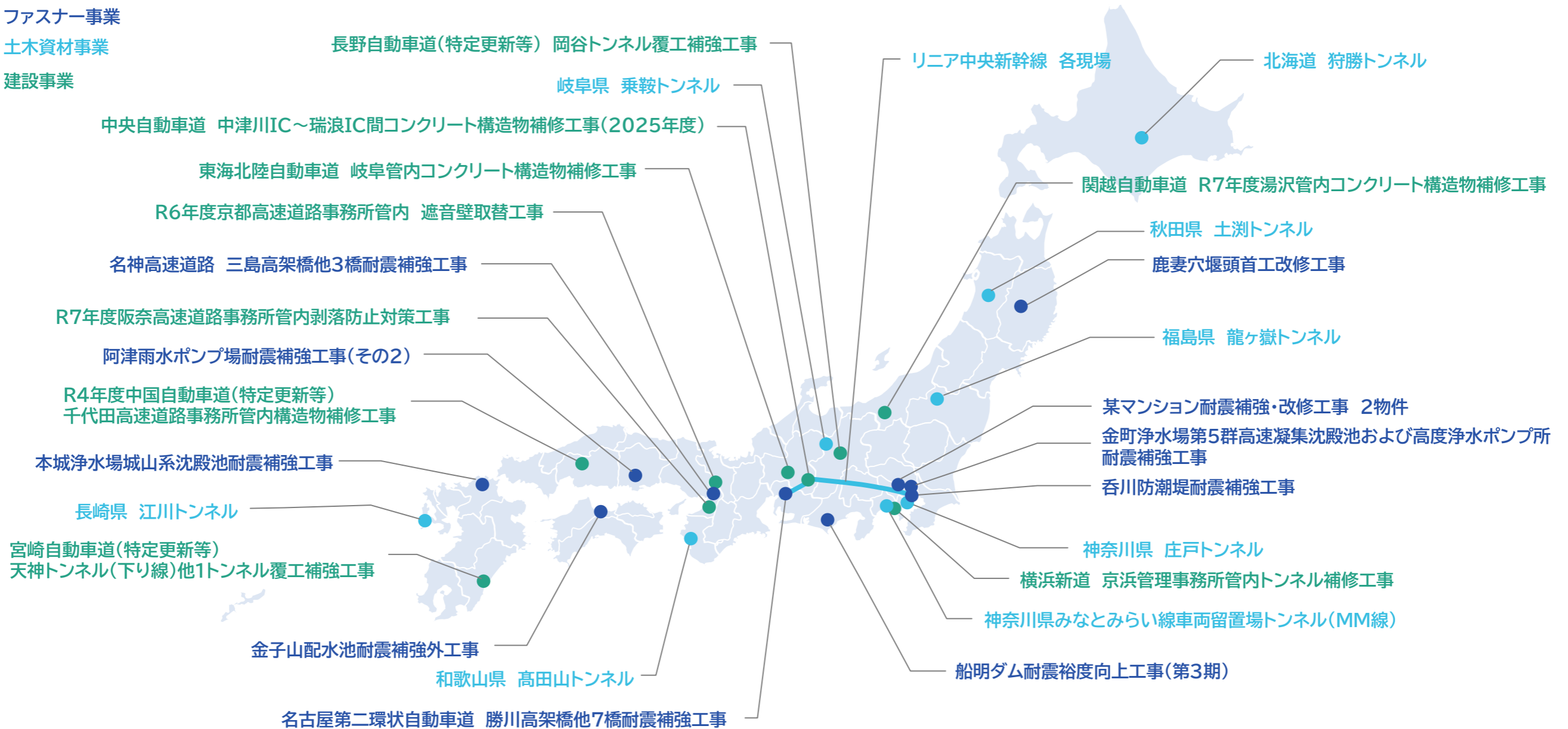
- 全国的なインフラ補修・補強工事の発注は継続
- 元請受注拡大のため新規工種へのチャレンジ
- 技術提案営業による受注強化および利益率の改善
(連結子会社アールシーアイ)
- 鉄道橋脚一面耐震補強工事受注に向けた早期情報収集と集中営業
- 道路橋脚一面耐震補強工事の選択営業強化



3. 2027年3月期業績予想

③主要物件の状況

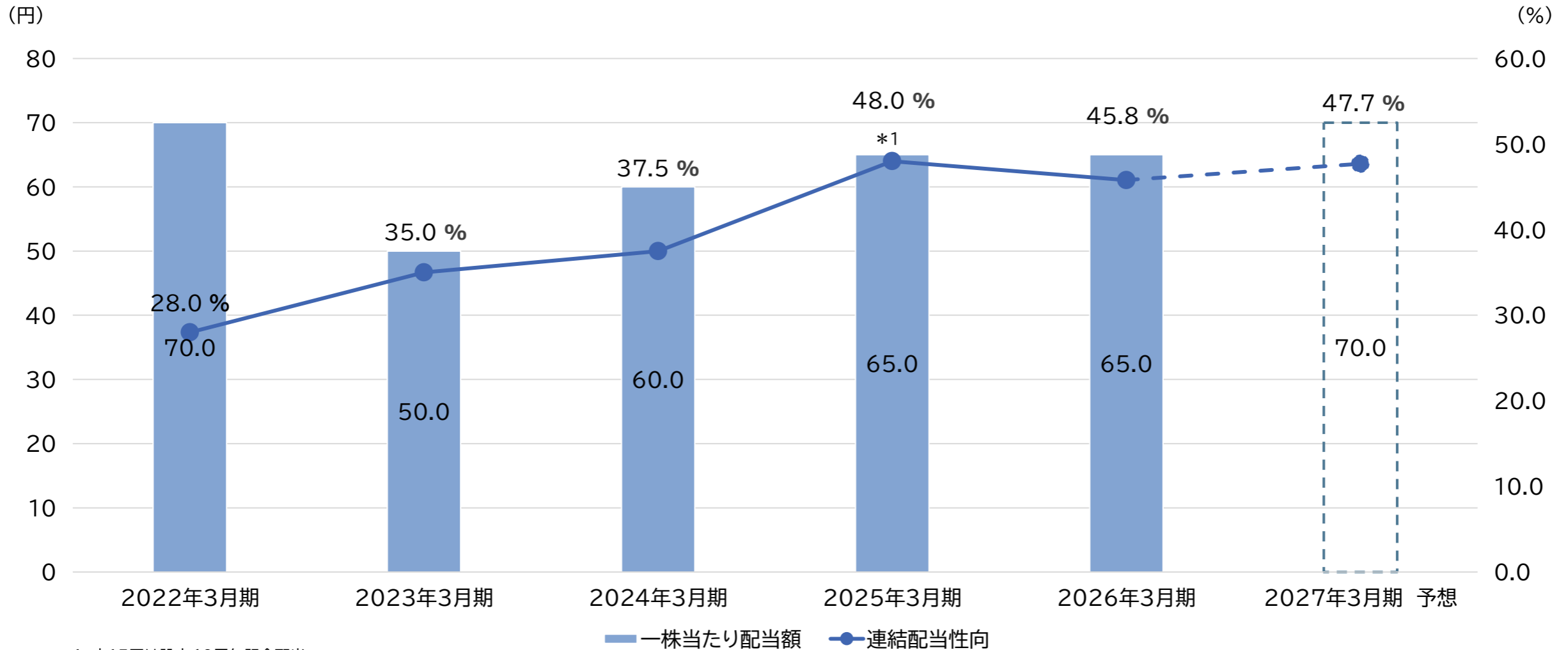
- ファスナー事業
- 土木資材事業
- 建設事業



4.株主還元・配当方針

配当推移

- 強固な財務基盤を維持しつつ、安定的かつ継続的な利益還元を重視することを基本とし、株主還元の充実を目指します
- 中期的目標は、連結配当性向40.0%とします



*1 内15円は設立60周年記念配当

II. 経営戦略



1. 事業環境認識

事業環境認識①

■ 建設市場を取り巻く環境

建設投資

- 2026年度建設投資は前年度比5.4%増の80兆9,400億円の見通し
建築:52兆2,900億円(前年度比5.1%増)
土木:28兆6,500億円(前年度比6.0%増)
政府投資・民間投資の両方で増加が継続。第1次国土強靱化計画の初年度に当たり、更新型土木が主流となり維持修繕・補修工事の需要が増加
- 2026年度公共事業関係費 当初予算は6兆1,078億円(前年度比0.4%増)で横ばい
内訳では国土交通省関係の公共事業を中心に、防災・減災、国土強靱化、老朽インフラ更新などに重点配分

資材価格動向

- 建設資材物価指数は、直近で全国平均146.1(前年同月比4.3%増)となり、上昇傾向は継続。特に土木部門においては71ヶ月連続での上昇となり、152.7(前年同月比6.0%増)に達し、最高値を更新
- 世界的な需給バランスの変化やインフレの影響、2024年問題等への対応に伴うコストアップなどを要因に、建設資材価格の高騰は総合的に今後も続くと思われる。
- 中東情勢の影響により、さらなる価格高騰や調達困難の懸念
⇒ コスト管理の徹底、代替資材の活用、技術革新の推進

建設就業者動向

- 建設技術者、技能労働者不足は解消されず、労務単価の引き上げは継続
- 2022年以降、離職者が入職者を上回る傾向。高齢化、若年層の減少により、人材不足の高止まりが長期化
⇒ 人材育成や技術継承の仕組みづくりの必要性
⇒ 魅力ある業界への変革が急務。労働環境の整備や生産性の向上、多様な人材の活用に向けた取り組みが重要
⇒ 人口減少下における将来的な建設業の担い手不足への備え

その他

- デジタル化の遅れと『2025年の崖』
⇒ 確かな現場ニーズを踏まえた建設DX、BIM・CIM対応に向けた積極投資
⇒ 現場でのデジタル技術活用の促進およびデジタル教育の推進
⇒ DXを推進するためのIT人材育成やデジタル技術に精通した人材の確保
- サステナビリティの社会ニーズに対応した技術開発や新規事業の創出
⇒ 成長エンジンである継続的な「新規事業の創出」の実現
⇒ 気候変動リスクの軽減(カーボンニュートラル)に寄与する技術開発
⇒ 投資戦略の明確化(M&A、アライアンスの活用)

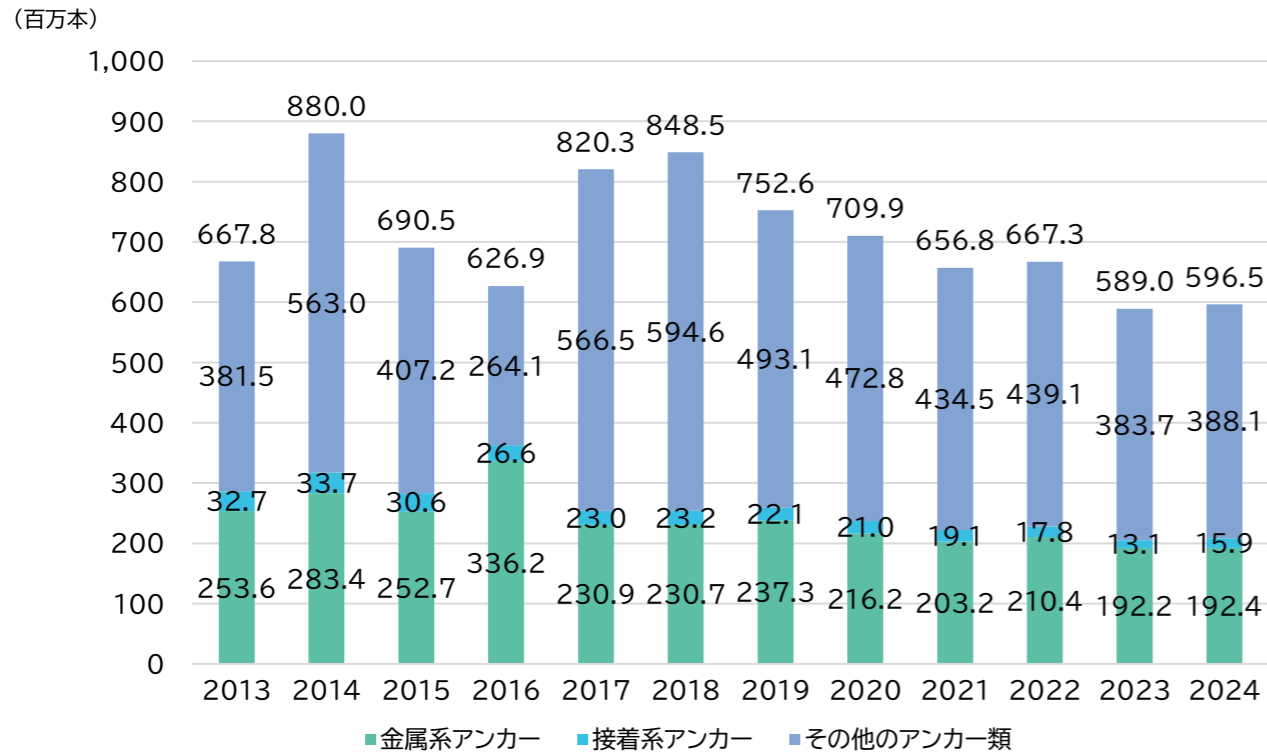
1. 事業環境認識

事業環境認識②

あと施工アンカーの市場動向

- あと施工アンカーの販売実績(出荷量)は微増
 - 一般流通品の鈍化により、金属系アンカーは前年とほぼ同水準
 - 民間の設備投資増加により、建築耐震補強工事の発注量の増加が見込まれる

あと施工アンカーの出荷量推移

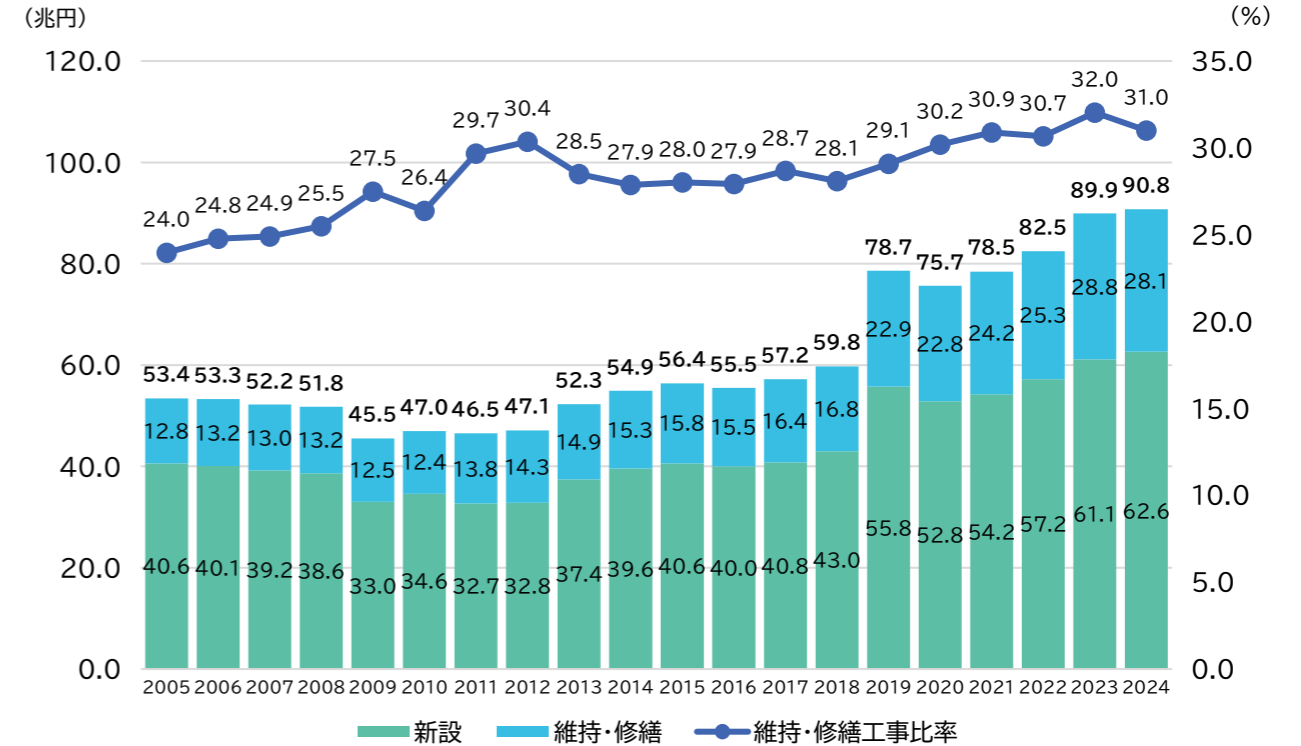


(出所) (一社)日本建築あと施工アンカー協会データより当社作成

維持修繕工事の市場動向

- 社会資本の老朽化を背景に維持修繕工事は高水準で推移
 - 2024年度は28.1兆円と施工高全体に占める割合は約30%となっている
 - 当社においても市場環境の変化に合わせ、維持補修の受注拡大に向けて工事体制を確立

維持修繕工事の施工高推移



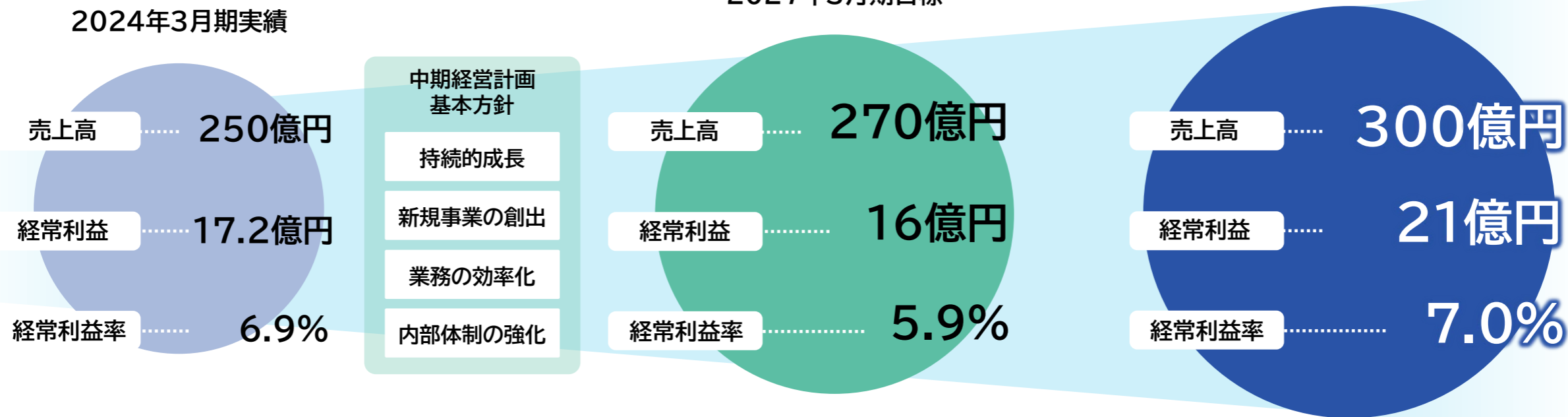
(出所) 国土交通省「建設工事施工統計調査」データより当社作成

2.中期経営計画骨子

- 時代の要請に応え、起こりうる変化に適応し、持続的に成長可能な企業を目指します
- 中期経営計画(2025年3月期-2027年3月期)では、前中計で築いた土台をより強固にし、次の成長ステージの事業基盤を拡充する期間と位置付け、DX・人的資本経営・成長投資の拡大により資本効率を向上させ、さらなる組織力強化と生産性向上を図りながら、中長期的な企業価値の向上に邁進してまいります。

技術の力で人と未来を支える

2027年3月期目標



前中計(事業基盤の構築)

中期経営計画(2025年3月期~2027年3月期)

継続した変化と成長

2031年3月期目標

ESG経営の推進(環境・社会と共存できるサステナブルな事業体制の構築)

3.中期経営計画 経営指標

	前中期経営計画	中期経営計画<2025年3月期－2027年3月期>				
	2024年3月期 実績	2025年3月期		2026年3月期		2027年3月期 目標
		目標	実績	目標	実績	
売上高 (百万円)	25,070	26,000	26,073	26,500	25,548	27,000
経常利益 (百万円)	1,720	1,400	1,459	1,550	1,174	1,600
経常利益率 (%)	6.9%	5.4%	5.6%	5.8%	4.6%	5.9%
配当性向 (%)	37.5%	40.0%	48.0%	40.0%	45.8%	40.0%

4.中期経営計画<2025年3月期-2027年3月期>での取り組み

セグメント別の進捗・成果

セグメント	2026年3月期の進捗と成果	経常利益(百万円、%)				
		2025年3月期		2026年3月期		2027年3月期
		目標	実績	目標	実績	目標
ファスナー事業	<ul style="list-style-type: none"> ■ 土木耐震せん断補強(RMA)の新規市場への拡大 ■ 工事管理体制の連携・強化、施工管理技士資格者の着実な増加 ■ 部門間連携強化により、開発新商品『ZIKMO』の市場拡充や補強・補修工事の受注増加 ■ 検査成績書類の電子化により、業務効率の向上 	670 (7.6%)	705 (8.6%)	740 (8.3%)	571 (7.0%)	760 (8.4%)
土木資材事業	<ul style="list-style-type: none"> ■ 施主・コンサル・ゼネコンへの営業強化により、トンネル補修工事、重金属対策の実績積み上げ ■ 技術提案営業、情報収集の強化により、設計外補助工法資材の受注増加 ■ 「ウレサポ」、「SMERTチェッカー」等、資機材のICT化とNETIS登録の推進 	300 (3.9%)	395 (5.2%)	340 (4.3%)	194 (2.7%)	360 (4.4%)
建設事業	<ul style="list-style-type: none"> ■ 災害協定や災害時の協力など施主が求める企業の信頼性・社会性の向上に向けた取り組み強化→賃上げ表明の実施(国交省案件において加点対象) ■ 既存工種での売上確保に向けた見積書・実行予算の妥当性強化 ■ 国交省・地方自治体等への入札チャレンジ ■ 拝受した優良工事表彰の受賞要因の分析を実施し、担当者の知識向上・意識改革を着実に実施 ■ IoTを活用した現場管理推進と管理書類の簡素化により現場作業効率の向上 	430 (4.5%)	359 (3.2%)	470 (4.8%)	408 (3.6%)	480 (4.8%)

*下段、()内はセグメント別経常利益率

4. 中期経営計画〈2025年3月期-2027年3月期〉での取り組み

<人的資本経営の強化～人材の活躍と成長に向けて>

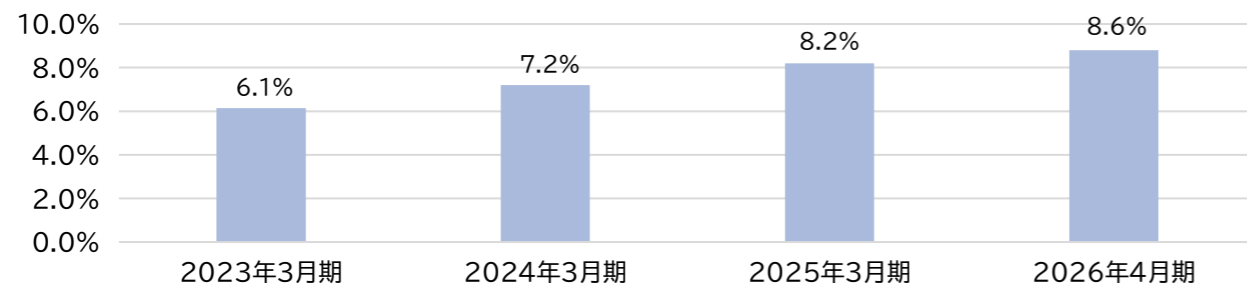
- 当社は2025年3月期からスタートした中期経営計画における重点分野の一つとして『人的資本経営の強化』を掲げ、事業環境の変化に柔軟に対応できる組織風土の醸成と人材の育成を図るとともに、従業員一人ひとりが心身ともに健康で生き生きと働き、持てる力を発揮できる職場環境の整備に取り組んでおります

女性の活躍推進への取り組み

「えるぼし(3段階)認証の継続」

- 当社は「採用」「継続就業」「労働時間等の働き方」「管理職比率」「多様なキャリアコース」の5つの基準の全ての基準を満たし、女性活躍推進の優良企業として、厚生労働大臣が認定する「えるぼし」の最高位(3つ星)を取得

「女性管理職比率」



「女性施工管理者の増加」

- 施工現場の環境整備を推進
- 「建設小町プロジェクト」など女性が能力を発揮できる仕組みづくり

人材育成

- 全ての従業員に各種研修や資格取得奨励をはじめとした教育や育成の機会を提供し、能力を高める取り組みを推進

「教育研修費」の推移

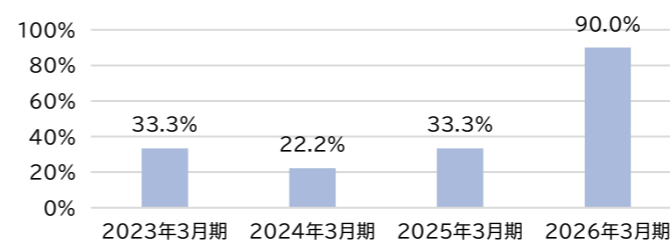


働きがいと働きやすさの向上

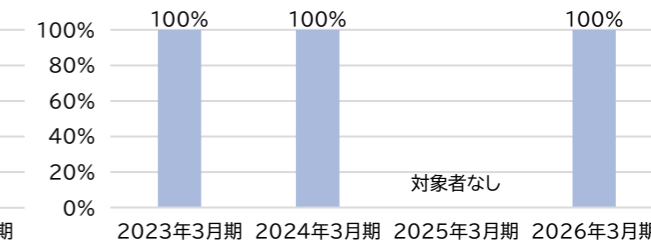
「健康経営」の推進

- 健康課題の把握、健康経営の実践に向けた土台作り、健康づくりに向けた具体策

「男性育休取得率」の推移



「女性育休取得率」の推移



5.サステナビリティへの取り組み

- 当社がもつ強みや技術を活かし、事業を通じて社会的課題を解決していくとともに、環境・社会・経済のサステナビリティに関する取り組みを推進し、中長期的な企業価値の向上と誰もが安心できる豊かな未来の実現へ貢献します

環境 E

【当社の製品や工法を通じた環境対策】

- コンクリート補修、土木耐震せん断補強 (RMA) 等によるインフラの長寿命化、維持管理
- 地山掘削土等から発生する重金属対策製品/工法の普及(パデムシート)
- 土木耐震せん断補強(RMA)を通じて、上下水道施設の機能性強化
- トンネル周辺の水環境保全の取組み(ウォータータイト)
- 従来の素材を変更し、環境負荷の軽減を可能とする製品や工法の開発・普及(Me工法/SNEコモルタル他)
- 壁や屋上の建築物に、直接接着剤で貼り付ける太陽電池(Haru-PV)を開発



【事業活動を通じた再エネ・CO₂削減・資源循環・省エネ】

- 施工現場での環境対策
 - 環境に配慮した建設資材の利用とリサイクル・リユースの促進
 - 騒音対策や水質汚染の防止
- CFP算定プログラムの活用
- 2025年8月ISO14001マネジメントシステムを取得
- 技術研究所、流通センターでの太陽光発電の利用

社会 S

【人的資本経営の強化】

- 働き方改革の推進、WLBの実現 (労働時間の適正化や勤務間インターバル制度の導入)
- 健康経営の推進(健康経営優良法人認定の継続)
- 従業員、協力企業を対象にしたコンプライアンス教育
- 国家資格取得にむけた教育支援の促進
- ダイバーシティの推進
 - 女性の活躍推進
施工現場の環境整備、また「建設小町プロジェクト」など女性が能力を発揮できる仕組みづくり
- 奨学金返還支援制度の導入



【社会貢献活動】

- 現場周辺のクリーン活動や災害時の地域救援活動
- 「こども本の森 中之島」への継続した寄付
- 被災地、ひと、地域をつなぐ市民参加型合唱「レクイエム・プロジェクト」への特別協賛



【安全・安心のための品質管理の推進】

- 労働災害ゼロへの取組み強化
- ISO9001マネジメントシステムの継続
- COHSMS (労働安全衛生マネジメントシステム)の認証拡大



ガバナンス G

【実効性のあるガバナンス体制】

- 取締役会の機能性強化
- コンプライアンスの強化 (定期的なリスク管理の徹底と意識向上)
- グループ各社・協力会社との適切な協働
 - コンプライアンスや人権意識啓発の共有
- ステークホルダーとの対話拡充

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



6. 経営戦略トピックス

研究開発① トンネル掘削工事の自動化

- トンネル工事の自動化に向けたロックボルトや補助工法の資材・施工システムを開発
- 作業員が切羽や高所などの危険箇所へ接近することなく安全に施工できる技術
- 苦渋作業の低減

ロックボルト自動打設関連の製品・技術

- ロックボルト自動打設用TD24繫ぎボルト:機械施工でも簡単に連結可能な3m+3mのロックボルト連結システムを開発したことで、ロックボルト長6mの自動打設を実現
- MASHボルト:異形棒鋼の片端に特殊ヘッドを加工することでナットを必要としないロックボルトを開発(共同開発:株式会社フジタ)
NETIS登録番号:KK-240114-A
- RPE施工の自動化システム:RPEロックボルトの挿入・注水作業を機械化するためにドリルジャンボのガイドシェルに取り付けるユニットおよび施工システムを開発完了し、自動化用ドリルジャンボへの搭載を検討中(共同開発:株式会社熊谷組)
- バレットカプセル:ロックボルト打設用に削孔されたボアホールに、エア圧送できるセメントカプセルと圧送システムを開発中



「ロックボルト自動打設用TD24繫ぎボルト」



「MASHボルト」



「RPE施工の自動化システム」
試験施工状況

補助工法自動打設関連の製品・技術

- AGF-プッシュコネクト:AGF鋼管の接続をネジ式ではなく、ソケット挿入式とすることでドリルジャンボのガイドシェルでの簡単接続を実現
- 採用実績23件

『ワンタッチで接続。』
AGF鋼管の接続作業を省力化。

施工性向上 安全性向上

AGF プッシュコネクト

「接続作業」を省力化。

『AGF-プッシュコネクト』は、AGF鋼管の接続部をソケット挿入としたことにより、ガイドシェルの方で接続することができます。

- 従来のネジ方式の作業に比べ、簡単に接続することができます。
- 構造上、緩みが発生しない構造となっています。
- ソケットを用いることで従来のネジ方式よりも高い接続部強度を有します。

形状(mm)	鋼材	引張強度(kN)	重量(kg/m)
φ114.3, t=4.5	STK490	400	12.2
φ114.3, t=6.0	STK400	400	16.1

鋼管のねじ込み回転作業無し!
緩み防止のネジ部の叩き作業無し!

ソケット (イメージ)

株式会社 ケーエフシー



6. 経営戦略トピックス

研究開発② i-Constructionへの取り組み

■ 防水シート溶着部の品質管理試験のICT化

SMERTチェッカー

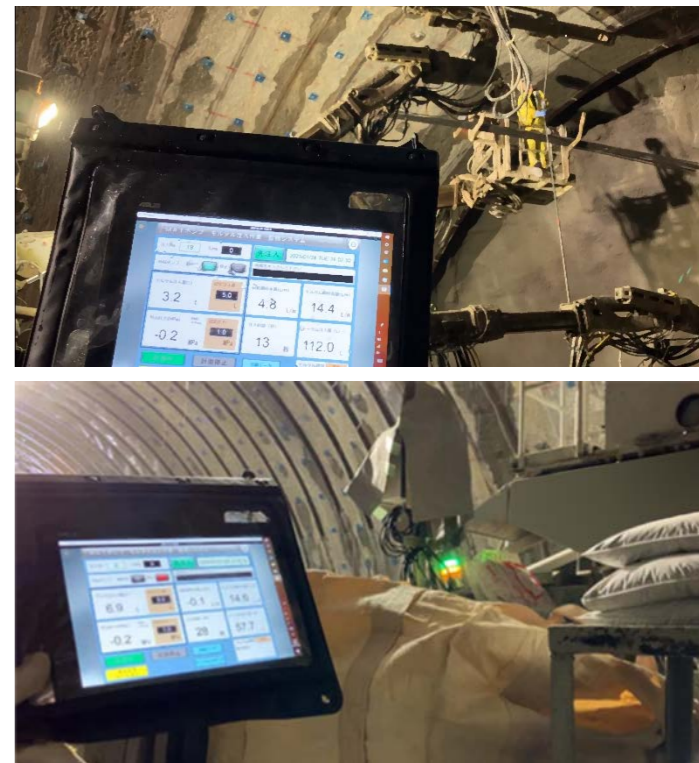
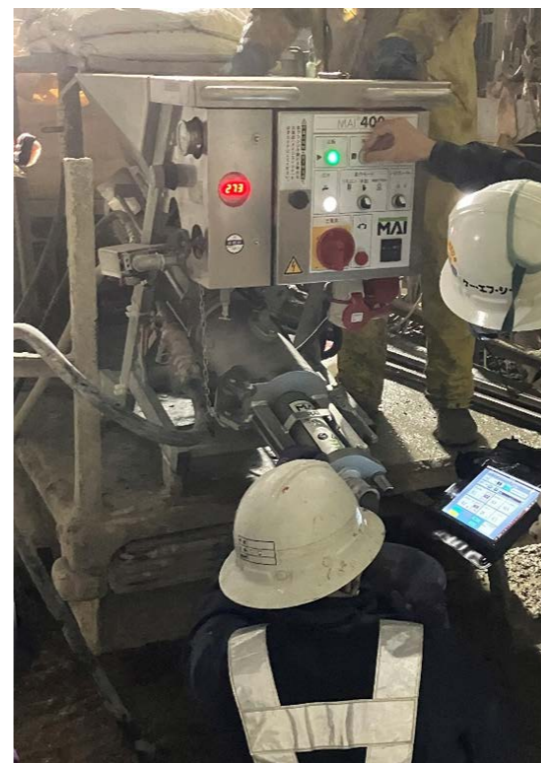
- SMERTジャッキに続き、防水シート溶着部の加圧・負圧試験装置をICT化
- デジタル圧力計を採用することで自動で試験の合否判定・黒板表示・帳票出力が可能
- 小型のバッテリー式エアポンプを採用することにより、省力化に貢献
- NETIS登録番号: KK-240096-A
- 採用実績 1件



■ MAIポンプ専用設計のモルタル流量算出システム

モルサポ

- MAIポンプ専用設計のモルタル流量算出システムで、固練りのモルタルにも対応
- モルタル流量のリアルタイムの確認と記録が可能で、品質管理に貢献
- MAIポンプの遠隔操作・自動停止が可能
- NETIS登録番号: KK-250083-A
- 採用実績 1件



6. 経営戦略トピックス

研究開発③ 非排水型トンネルの安全・品質向上を実現する技術

- 鉄筋組立の作業性向上
- 防水シート貫通部の止水性確保
- 採用実績2件、施工開始前受注物件1件

防水シート貫通部を完全止水する新技術『インテロック』

- 近年の研究により、貫通部の漏水メカニズムが概ね解明されました。インテロックはその漏水メカニズムに対応できる唯一の貫通型鉄筋金具
- 安定性、壁面との垂直性に優れた貫通型を使用することにより、高水圧(0.8MPa以下)や大断面トンネルなどにも対応
- 独自の止水システムにより0.8MPaまでの水圧に対応
- 排水トンネル用の廉価版を新たにラインナップ

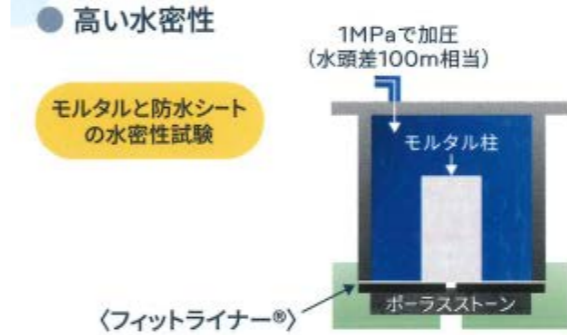


NETIS登録番号 KT-230270
 特許第7742692号
 (共同開発：鹿島建設株式会社)

- 全面接着による防水性向上
- 特殊加工により、異種材料との接合可能
- 断面変化部、立坑と横坑の接続部も異材で解決

化学接着性防水シート『フィットライナー®』と異種材料による新防水工法

- 従来、異種材料との接合が困難とされたシート防水材において化学接着性加工により異種材料との接合が可能
- 断面変化部や、立坑と横坑の接続部など従来技術では施工が困難な箇所も吹付けなどにより容易に処理可能
- 【独立行政法人 鉄道建設・運輸施設整備支援機構】による整備新幹線建設プロジェクト推進における防水工の技術公募にてA評価「適用の可能性が高い」を取得



品番:KV-200
 公益財団法人
 鉄道総合技術研究所
 所見「十分な水密性を有しているものと判断される」

研究開発④ 国土強靱化・斜面防災事業への取り組み

- 国土強靱化に伴う需要拡大と新規対象への対応

STマイクロパイル工法

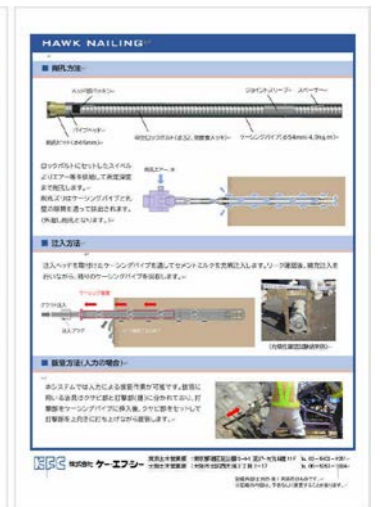
- 構造物の支持、既設構造物の(耐震)補強、地盤・斜面の補強に適した小口径鋼管杭
- 機動性の良いコンパクトな施工機械設備で、狭隘な場所でも施工可能
- 削孔性能に優れ、複雑な地盤に柔軟に対応でき、斜杭の施工も可能
- 振動や騒音を最小限に抑えることができる
- 施工速度が速く、仮設備を含めたトータルコストの縮減・工期の短縮が可能
- 令和7年道路橋示方書に準拠した技術審査証明取得準備中(載荷試験実施継続)
- NETIS登録HR-030012-V(掲載期間終了)
- 施工実績359件、施工延長約95,310m



- 斜面防災事業への市場展開

ホーク・ネイリング

- 永久仕様に適合した自穿孔ロックボルト
- 削孔ツールの軽量化で人力施工も可能
- 施工は汎用機械で適用可能
- ケーシングパイプ併用により、以下の特長がある
 - 自穿孔ロックボルトでスペーサーが取り付け可能
 - 削孔中に補強材が地山に直接接触しないため、補強材へのダメージが少ない
 - ケーシングパイプによる加圧注入で、グラウト充填が確実
 - 小型機械による施工で、作業スペースや仮設の軽減が可能
- 補強材(BO-Z)はZAMメッキ仕様で、防食性能に優れている
- NETIS登録HK-240018-A
- 施工実績2件



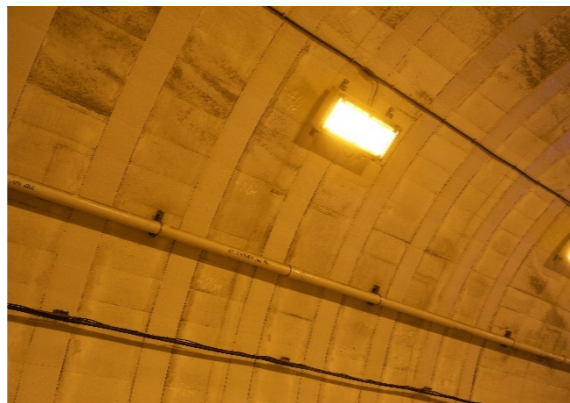
6. 経営戦略トピックス

新製品 (インフラ維持管理)

- 施工面積が1/4になるので、コスト縮減と工程短縮が図れるトンネル内面補強工法

ガイナSHシートボード工法

- 高目付(1200g/mm²)の特殊積層炭素繊維シートを帯板状に設置
- 特殊積層繊維シートは接着剤と含浸材を分別して施工できるので、高目付でも1層貼りが可能
- 帯板貼りでも炭素繊維シート全面貼り工法と同等の補強効果
- 軽量でフレキシブルなため、取り扱いが容易
- 帯板状に漏水箇所を避けて割付けることで、施工後のシート浮き・はく離のリスクを低減し、維持管理の負担を軽減
- 補強後の覆工を目視点検が可能になり、継続的なトンネル健全度を把握可能
- 既設の導水樋の撤去が不要なため、補強工事全体の効率アップ
- NETIS登録KT-230046
- 施工実績5件



- 緩衝材を必要としない樋系漏水対策工法

ガイナメッシュ工法Dタイプ

- 漏水対策と剥落対策を同時に行うことが可能
- 透明リブ付きシートなので漏水を逸走させることなく導水することが可能
- 躯体の変状、ゴミの滞留を確認する事ができ、メンテナンスが容易
- 緩衝材を使用しないため、取付けナットのトルク管理が可能
- 軽量なため現場での施工性に優れる
- NEXCO認証基準に合格
- 施工実績3件



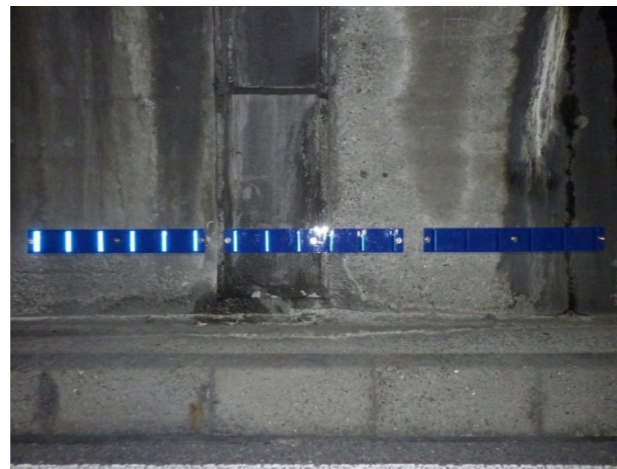
6. 経営戦略トピックス


新製品（安全対策製品）

- 湧水箇所でも設置可能な視線誘導ライン

ガイナ視線誘導ライン

- NEXCO設計要領適合製品
- 直貼りと浮かし貼りをラインナップ
- 湧水区間での設置も可能
- 導水樋部でも樋を撤去せずに設置可能
- 高耐久・自己消火性材料により安全性向上
- 特許申請中
- NETIS登録申請中
- 受注済み案件2件



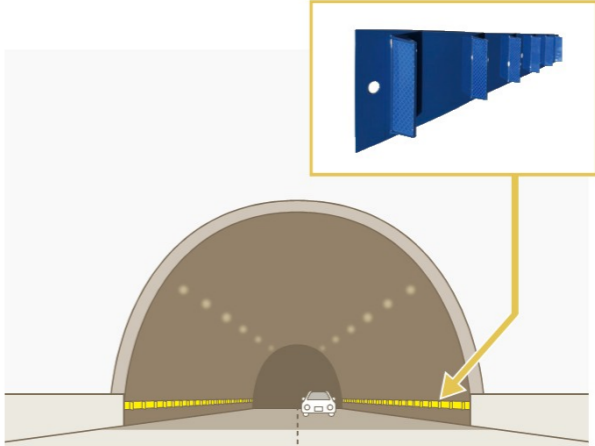


トンネル内装工

NEXCO 設計要領適合製品


ガイナ視線誘導ライン反射材

トンネル内の視環境を向上させる視線誘導ライン反射材



特長

- 優れた視線誘導効果
- 直線部・曲線部・対面通行に対応
- 優れた経済性



6. 経営戦略トピックス

海外インフラ補修・補強市場の事業拡大、新設トンネル市場へ新領域を開拓

- 海外インフラメンテナンス市場、新設トンネル市場への製品販売展開

合弁会社ASIAM Infra Co.,Ltd.(タイ)の事業拡大

海外ブランド『NINJA』シリーズによるインフラ補修・補強事業展開のほかトンネル掘削資材拡販による事業拡大へ

タイでは1990～2010年代に整備されたインフラの老朽化が進み、維持・管理の重要性が高まっている。この市場背景のもと、ASIAMは着実に実績を積み上げ、2025年12月期に単年度黒字を達成した。

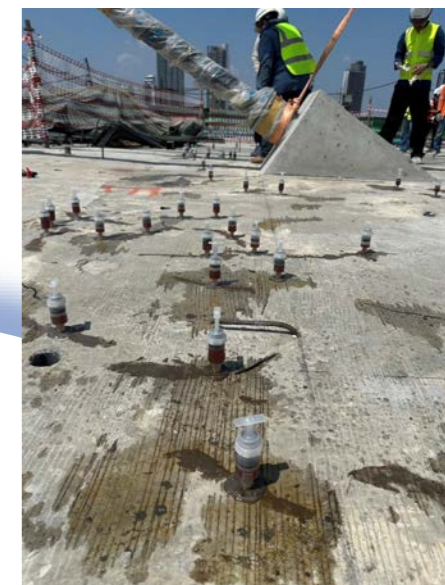
近年、大地震や洪水、施設の倒壊や道路陥没などが発生し、インフラメンテナンス需要は高度化・多様化している。特に調査・点検分野では、有効な海外技術を積極的に導入しようとする動きが強まっており、日本の技術に対する期待は大きい。当社は炭素繊維シートを主軸とする自社ブランド『NINJA』を展開し、非破壊検査の活用や他社製品の仲介により事業領域を拡大している。

さらに、次なる成長戦略として、タイ国内の新設トンネル案件へのアプローチを強化している。先端技術に対応した高付加価値資材のプロモーションを本格化し、これまでに培った政府機関や現地事業者とのネットワークを活かして初期段階からのスペックインを狙う。これにより、補修・補強分野に加え、新設インフラ市場での新たな収益の柱を確立していく。

- 合弁会社ASIAM Infra Co.,Ltd.によるメンテナンス市場への販売展開
- インフラ構造物の点検・調査・設計・施工・販売に関わる技術支援、営業支援
- 路面下空洞調査技術(GPR)、地震モニタリングのプロモーション
- 構造物補修補強工事の増加にともない、現地生産の検討
- 現地企業との商品開発
- タイ高速道路公社(EXAT)トンネル技術会議にて発表

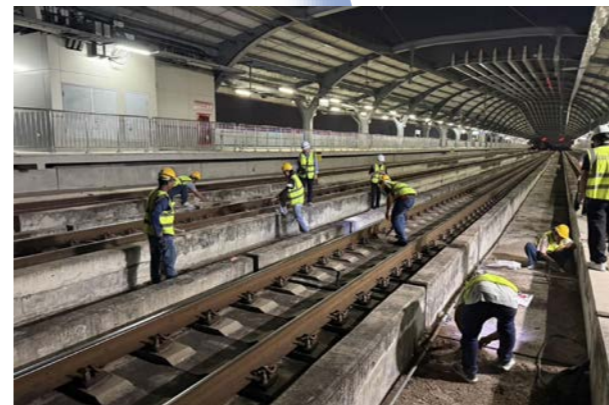


EXATトンネル技術会議



橋梁補修

NINJA



鉄道床版補修



GPRデモ研修会(加須技術研究所)

技術の力で人と未来を支える

IRに関するお問い合わせ先

株式会社ケー・エフ・シー

電話:03-6402-8250/e-mail:kfc.ir@kfc-net.co.jp
(担当:佐竹)

将来見通し等に関する注意事項

本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。

本資料における、将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。また、将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。

また、業界等に関する記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。

本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、お客様ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任を負いません。